

I めざす学校

- 1 学校教育目標 「主体的に考え学び合い、主体的に行動できる生徒の育成」
- 2 めざす学校像 「みんなが安心して過ごせる居心地の良い学校」
 - (1)互いに認め合い、子どもも教師も笑顔になれる学校
 - (2)地域や保護者に信頼され、ともに創り上げる学校
- 3 めざす子ども像 バランスのとれた「知」「徳」「体」を身につける
 - (1)確かな学力を身につけ、自らすすんで学習する生徒【知】
 - (2)規律ある生活習慣と正しい行動力を身につけた生徒【徳】
 - (3)身体の健康や体力、安全について真剣に考え、自他の命を大切にできる生徒【体・徳】
- 4 めざす教師像 「信頼される教師」「学び続ける教師」「実践力、行動力のある教師」
 - (1)教育に対する使命感を忘れず、常に子どもに寄り添う。
 - (2)互いに支え合い、学び合い、刺激を受け合い、ともに成長する。
 - (3)全教職員が一丸となって、学校運営に組織的に取り組む。

II めざす学校の達成に向けた方策 ()内は育成が期待される非認知能力の要素

- 1 生徒が安心して過ごせる生活環境を整えます 【思いやりPJ】
 - (1)いじめ不登校の未然防止
 - ・「子どもの声に耳を傾ける＝話を聴く」ことを意識した取組
教育相談期間の定期的設定、日常的な休憩時間等での生徒観察等
 - ・きめ細かな情報の共有(特相部会を週2回設定等)
 - ・様々なストレスからしなやかに回復する力を高める取組(レジリエンス教育)の推進
 - (2)「人権教育」「特別支援教育」「多文化共生教育」「キャリア教育」の推進
 - ・生徒、教職員とも自らの人権感覚を磨き、自他を大切にする心を育てる
「生活実践レポート」発表に向けての取組等
 - ・学校生活の様々な場面において、「自分の思いを表現、発信する力」「人の考えを受け入れ、互いに伝え合う力」を育成する
 - ・体験学習等様々な進路学習を行い、社会を積極的に形成する意欲を養う
 - (3)ポジティブ生徒指導の推進
望ましい行動を増やしていく

平田野中学校 生活目標 「みんなのひらたの」三つの大切

- 「じぶん」自分の命やものを大切にしよう
- 「あいて」相手の気持ちを考えて行動しよう
- 「ことば」あいさつやことばづかいであたたかい雰囲気をつくろう

- 指標 「学校に行くのは楽しい」【目標：90%】(社会性)
 「自分には良いところがあると思う」【目標：80%】(自己肯定感)
 「自分もやればできるという思いを持っている」【目標：80%】(自己肯定感)
 「将来の夢や希望を持っている」【目標：50%】(社会性)

2 すべての生徒の学力保障をめざし「わかる授業」を実践します【学力向上PJ】

(1)「めあて」と「振り返り」の質的向上の継続的な取組

指標 「めあてがあると授業が分かりやすくなる」【目標：90%】(自己肯定感)
「振り返りがあると授業が分かりやすくなる」【目標：90%】(自己肯定感)

(2)対話的な「学び合いの場」の設定

指標 「授業中、自分の考えと比較しながら、友達の考えを」【目標：90%】(社会性・やりぬく力)

(3)少人数指導・習熟度別学習による生徒の学習意欲を引き出す取組

指標 「授業中、進んで発言したり、考えを発表したりしている」【目標：70%】(自制心・やりぬく力)

(4)自ら進んで学習に向かう生徒の育成

指標 「自分から進んで勉強に取り組んでいる」【目標：75%】(自制心・やりぬく力)
「学校の宿題をしている」【目標：90%】(自制心・やりぬく力)

3 家庭や地域と共にある学校づくりを推進します【家庭や地域と共にある学校】

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)による熟議の活性化をめざす。

(1)家庭(保護者)・地域・学校(教職員)が関わり、一体となった教育活動の推進

指標 学校運営協議会の開催【目標：年6回(校区学校運営協議会含む)】

(2)学校アンケート結果をもとにした現状の把握と改善

指標 学校アンケートの実施【目標：年1回以上】

(3)学校関係者評価を活用した教育活動の質の向上

(4)地域に開かれた学校づくりの推進

指標 「生徒の様子を見る機会が十分にある」【目標：85%以上】

「学校からの情報を積極的に発信している」【目標：85%以上】

4 教育に関わる環境や条件を整備します【安心・安全な学校環境づくり】

(1)命を守る取組の推進

①「学校危機管理マニュアル」の見直しと活用(事故対応, 災害 等)

②登下校時の粘り強い交通指導「ヘルメットをかぶろう運動」の継続

(2)教職員の資質向上(ライフステージに即した学び続ける教師集団)

①校内研修の充実 その時々に必要なとされる内容の精選

②研修講座等の積極的活用 指標 受講2回以上/年

(3)総勤務時間の縮減に向けた取組 働き方改革の推進につなげる

ともに支え合い, 明るく風通しの良い職場環境をめざす

指標 昨年度より改善する

①360 時間/年, 45 時間/月を越える時間外労働年間延べ人数

②時間外労働 月平均 30 時間以下/人

③年休取得 年20日/人, 前年度比で年1日/人増加

④定時退校日を月2日設定, 定時退校できる職員の割合 90%以上

⑤放課後開催の会議 60 分以内に終了する割合 75%以上